## 職業実践専門課程等の基本情報について

学校名												
大原情報医療保育												
和歌山校								073-475-8010				
設置者名		設.	立認可年月	月日	代表	:首名	Ŧ	101-0065	所在地			
学校法人 大原	学園	昭	和54年4月	1日	中本	毎彦	(住所)	東京校千代田区西	神田1丁目2番10号			
分野		 認定課程名	ζ		認定学科名	5		03-3292-6266 『士認定年度	高度専門士認	定年度	職業実践	専門課程認定年度
教育•社会福祉		会福祉専			保育学科	-		26(2014)年度		<u>~+/x</u>		28(2016)年度
3/17 IZZIMIE	321312	- A IM IM ()	1 10/12	l .	NKI3 I I		1 72				1 72	220(2010)   12
学科の目的	本学科は、	教育基本》	法及び学校	教育法に基	<b>基づき、保育</b>	並びにビジ	ネスに関す	る教育を施し、人格 <i>の</i>	)陶冶を行い、もって有	為な産業人	を育成する	ことを目的とする。
学科の特徴(取得 可能な資格、中退 率 等)	取得可能的中退率:09	な資格:幼科 %(令和4年	推園教諭2種 5月1日時点	重免許状 点におけるる	在学者14名、	、令和5年3	月31日時点	における在学者14名	)			
修業年限	昼夜	全課程の		eな総授業B 位数	寺数又は総	講	義	演習	実習	爭	<b>実験</b>	実技
2	昼間	※単位時間、	単位いずれ	1,700	) 単位時間	760	単位時間	1,180 単位時間	360 単位時間	(	) 単位時間	30 単位時間
年		かに記入		-	- 単位	-	単位	- 単位	- 単位	-	- 単位	- 単位
生徒総定員	生徒事	€員(A)	留学生	数(生徒実員)	の内数)(B)	留学生書	割合(B/A)					
60 人	14	1		0	) 人		1 %					
60 人	■卒業者		:		8	U	1 70					
		望者数(D			1		Ì					
	■就職者		:		1		Ż.					
	■地元弘	職者数(F) (F/D)	)		100		<u>人</u> %					
			元就職者の	の割合 (F/E	E)		/0					
	■☆类耂/	こ占める就	四半の割る	> (E (C)	100		%					
	■平未有Ⅰ	- 白める肌	戦句の制言	5 (E/U)	13		%					
就職等の状況	■進学者				6		人					
3,51,54 5 17 \$ 1,05	■その他											
	アルバイト	~ 1名										
	(令和			fに関する令	和5年5月	1 日時点の	情報)					
		職先、業界	等									
	(令和4年度		교사스 숙	/に 収 杏 周	l F宣田町	r/( <b>佐</b> 杏融)	( <b>□</b> )⊔∨⊤	计全运址注入和图	吹山博厚会 さんた係	空存周 分名	소설차(本)	左体長促充周 ふ
					社会施設事			、江五田正丛八和明	MERT CIVICA	(HE)(113	<b>ДШШД</b>	印旭庄休日園、ノ
		評価機関						無				
第三者による	※有の場合	、例えば以	下について任	L 意記載								
学校評価												
		評価団体:				受審年月:			評価結果を掲載した ホームページIIPI			
W=+## TA O		評価団体:				受審年月:			評価結果を掲載した ホームページURL			
当該学科のホームページ			ac in/sen	mon/scho								
			ı.ac.jp/sen	mon/scho	ol/wakayan							
ホームページ	https://w			mon/scho								
ホームページ	https://w	ww.o-hara 立時間による	5算定)	mon/scho						1. 700	0 単位時間	
ホームページ	https://w	ww.o-hara	5算定)		ol/wakayan	na/	<b>三堂</b>				0単位時間	
ホームページ	https://w	ww.o-hara 立時間による	5算定) 女 うち企業等	等と連携し <i>†</i>	ol/wakayan た実験・実習	na/ B・実技の <del>!</del>	受業時数			80	0 単位時間	
ホームページ	https://w	ww.o-hara 立時間による	5算定) 女 うち企業等 うち企業等	等と連携し <i>†</i> 等と連携し <i>†</i>	ol/wakayan	na/ B・実技の <del>!</del>	受業時数			80	0 単位時間	
ホームページ	https://w	ww.o-hara 立時間による	5算定) 女 うち企業等	等と連携し <i>†</i> 等と連携し <i>†</i> 受業時数	ol/wakayan た実験・実習 た演習の授業	na/ 習・実技の打 実時数		,		80	0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間	
ホームページ	https://w	ww.o-hara 立時間による	5算定) 女 うち企業等 うち企業等	等と連携し <i>t</i> 等と連携し <i>t</i> 受業時数 うち企業等	ol/wakayan た実験・実置 た演習の授業 等と連携した	na/ 冒・実技の抗 作時数 二必修の実属	険・実習・実	対の授業時数		80	0 単位時間       0 単位時間       0 単位時間       0 単位時間	
ホームページ	https://w	ww.o-hara 立時間による	5算定) 女 うち企業等 うち企業等 うち必修打	等と連携した 等と連携した 受業時数 うち企業等 うち企業等	ol/wakayan た実験・実習 た演習の授業 等と連携した 等と連携した	ma/ ・実技の抗 に時数 ・必修の実態 ・必修の演習	険・実習・実 習の授業時数	芸技の授業時数で		(	0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間	
ホームページ URL	https://w	ww.o-hara 立時間による	5算定) 女 うち企業等 うち企業等 うち必修打	等と連携した 等と連携した 受業時数 うち企業等 うち企業等	ol/wakayan た実験・実置 た演習の授業 等と連携した	ma/ ・実技の抗 に時数 ・必修の実態 ・必修の演習	険・実習・実 習の授業時数	芸技の授業時数で		(	0 単位時間       0 単位時間       0 単位時間       0 単位時間	
ホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状況	https://w	ww.o-hara 立時間による	5算定) 女 うち企業等 うち企業等 うち必修打	等と連携した 等と連携した 受業時数 うち企業等 うち企業等	ol/wakayan た実験・実習 た演習の授業 等と連携した 等と連携した	ma/ ・実技の抗 に時数 ・必修の実態 ・必修の演習	険・実習・実 習の授業時数	芸技の授業時数で		(	0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間	
ホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状か	https://w	ww.o-hara 立時間による	5算定) 女 うち企業等 うち企業等 うち必修打	等と連携した 等と連携した 受業時数 うち企業等 うち企業等	ol/wakayan た実験・実習 た演習の授業 等と連携した 等と連携した	ma/ ・実技の抗 に時数 ・必修の実態 ・必修の演習	険・実習・実 習の授業時数	芸技の授業時数で		(	0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間	
ホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状況	https://w	ww.o-hara な時間による 総授業時 <b>委</b>	5 算定) 女 うち企業等 うち必修材 (うち企ま	等と連携した 等と連携した 受業時数 うち企業等 うち企業等	ol/wakayan た実験・実習 た演習の授業 等と連携した 等と連携した	ma/ ・実技の抗 に時数 ・必修の実態 ・必修の演習	険・実習・実 習の授業時数	芸技の授業時数で		80	0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間	
ホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状か	https://w	ww.o-hara な時間による 総授業時数 な数による算	5.算定) 女 うち企業等 うち必修技 (うち企ま	等と連携した 等と連携した 受業時数 うち企業等 うち企業等と連携し	ol/wakayan た実験・実習 た演習の授業 等と連携した 等と連携した	a・実技の対 と と と と と と を の 実 と と を の 実 を の 変 を の 変 る の っ で る う で う で う で う で う で う で う で う で う で	検・実習・享 習の授業時数) の授業時数)	芸技の授業時数で		80	0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間	
ホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状か	https://w	ww.o-hara な時間による 総授業時数 な数による算	5.算定) 対 うち企業等 うち必修計 (うち企ま 章定) 女	等と連携した 等と連携した 受業時数 うち企業等 で等と連携した 等と連携した	ol/wakayan た実験・実置 た演習の授業 等と連携した きと連携した	a・実技の教 と必修の実態 と必修の演習 ・シップの	検・実習・享 習の授業時数) の授業時数)	芸技の授業時数で		8(	0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間	
ホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状か	https://w	ww.o-hara な時間による 総授業時数 な数による算	5.算定) 対 うち企業等 うち必修計 (うち企ま 章定) 女	序と連携し1 序と連携し1 受業時数 うち企業等 うち企業等 楽等と連携し 存と連携した 存と連携した。	ol/wakayan た実験・実習 を演習の授事 等と連携した たとでは、たてインター	a・実技の教 と必修の実態 と必修の演習 ・シップの	検・実習・享 習の授業時数) の授業時数)	芸技の授業時数で		8(	0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 - 単位	
ホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状か	https://w	ww.o-hara な時間による 総授業時数 な数による算	5 算定) 女 うち企業等 うち必修打 (うち企ま (うち企ま な うち企業等 な うち企業等	序と連携し1	ol/wakayan た実験・実験・実習を演習の授業 をはませんが、また実験・実習をときませんが、またまでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	ma/ 『・実技の技 業時数 「必修の実験」 「必修の演習・一ンシップの	後・実習・3 習の授業時数) の授業時数) 受業時数	対の授業時数で		8(	0 単位時間 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位	
ホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状か	https://w	ww.o-hara な時間による 総授業時数 な数による算	5 算定) 女 うち企業等 うち必修打 (うち企ま (うち企ま な うち企業等 な うち企業等	等と連携し1 テと連携し1 受業時数 うち企業等 うち企業等 と連携し1 テと連携した テと連携した ラス企業等 である。	ol/wakayan た実験・実音を演習の授業 等と連携した た大変のでは、またでは、またでは、またでは、またでは、またでは、またでは、またでは、また	ar・実技の技 実時数 ・必修の実際 ・シップの ・実技の対 に必修の実際	像・実習・身 習の授業時数) 授業時数) 受業時数 検・実習・身	対の授業時数		8(	0 単位時間 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位	
ホームページ URL 企業等と連携した況 (A、Bいずれか	https://w	ww.o-hara な時間による 総授業時数 な数による算	5 算定) 女 うち企業等 うち企業等 (うち企ま (うち企ま す定) 女 うち企業等 力ち企業等	等と連携し1 育と連携し1 受業時数 うち企業等 うち企業等 を連携し1 存と連携した うち企業等 でのでする。 でのでのでする。 でのでのでのでのでのでのでのでのでのででのでのでのでのででのででのでのででので	ol/wakayan  た実験・実習の授業  等と連携した したインター  た実験・実験・実験・実験・実験・実験・実験をと連携した	ma/ 習・実技の対 実時数 ニ必修の実影 ニンシップの コーンシップの と変にの表 と変になった。 と変になった。	像・実習・身 習の授業時数) 受業時数 受業時数 像・実習・身 な の授業時数	対の授業時数		8(	0 単位時間 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位	
ホームページ URL 企業等と連携した況 (A、Bいずれか	https://w	ww.o-hara な時間による 総授業時数 な数による算	5 算定) 女 うち企業等 うち企業等 (うち企ま (うち企ま す定) 女 うち企業等 力ち企業等	等と連携し1 育と連携し1 受業時数 うち企業等 うち企業等 を連携し1 存と連携した うち企業等 でのでする。 でのでのでする。 でのでのでのでのでのでのでのでのでのででのでのでのでのででのででのでのででので	ol/wakayan た実験・実音を演習の授業 等と連携した た大変のでは、またでは、またでは、またでは、またでは、またでは、またでは、またでは、また	ma/ 習・実技の対 実時数 ニ必修の実影 ニンシップの コーンシップの と変にの表 と変になった。 と変になった。	像・実習・身 習の授業時数) 受業時数 受業時数 像・実習・身 な の授業時数	対の授業時数		8(	0 単位時間 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位	
ホームページ URL 企業等と連携した況 (A、Bいずれか	https://w	ww.o-hara な時間による 総授業時数 な数による算	5 算定) 女 うち企業等 うち企業等 (うち企ま (うち企ま す定) 女 うち企業等 力ち企業等	等と連携し1 育と連携し1 受業時数 うち企業等 うち企業等 を連携し1 存と連携した うち企業等 でのでする。 でのでのでする。 でのでのでのでのでのでのでのでのでのででのでのでのでのででのででのでのででので	ol/wakayan  た実験・実習の授業  等と連携した したインター  た実験・実験・実験・実験・実験・実験・実験をと連携した	ma/ 習・実技の対 実時数 ニ必修の実影 ニンシップの コーンシップの と変にの表 と変になった。 と変になった。	像・実習・身 習の授業時数) 受業時数 受業時数 像・実習・身 な の授業時数	対の授業時数		8(	0 単位時間 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位	
ホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状か	https://w	ww.o-hara な時間による 総授業時数 総授業時数	5 算定) 女 うち企業等 うち必修社 (うち企ま す定) 女 うち企業等 すた企業等 うち企業等 うち企業等 うち企業等 うち企業等	序と連携し1	ol/wakayan  た実験・実習の授業  等と連携した したインター  た実験・実験の授業  た演習の授業  たは、 したインター  たまり、 と連携した  たまり、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には	ma/ 習・実技の打 実時数 二必修の実影 二・実技の打 変に必修の実影 こ必修の演習 こ必修の演習 ことの修の演習 ことの修の演習	像・実習・身 習の授業時数) 受業時数 受業時数 像・実習・身 な の授業時数	対の授業時数		8(	0 単位時間 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位	
ホームページ URL 企業等と連携した況 (A、Bいずれか	https://w	ww.o-hara な時間による 総授業時数 でよる 変による 変による 変に 変に 変に のである 変に できる できる できる できる できる できる できる できる	5 算定) 女 うち企業等 うち企か修材 (うち企ま (うち企ま な うち企業等 女 うち企業等 な うち企ま (うち企ま (うち企ま (うち企ま (うち企ま (うち企ま (うち企ま (うち企ま (うち企ま (うち企ま (うち企ま (うち企ま (うち企ま (うち企ま (うち企ま (うちで) ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( (	等と連携しか 等と連携しか うち企業等 うち企業等 と連携しか うち企業等 を連携したか うち企業等 を連携したか うち企業等 でするな企業等 でするな企業等 でするな企業を でするなど。 できるなど、 できななど、 できなななななななななななななななななななななななななななななななななななな	ol/wakayan  た実験・実習の授業  等と連携した と連携した と実験・実験 であ  を実験・実験 であ  を実験 にたと にたと にた後 にたん と に と に と に と に と に と に と に と に と に と	ma/ 習・実技の対 実時数 =必修の実影 =必修の演習 ーンシップの を必修の実影 を必修の実験 を必修の実験 を必修の実験 を必修の実験 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	僚・実習・身 習の授業時数) 受業時数 受業時数 後・実習・身 習の授業時数)	対の授業時数 て 経技の授業時数	ホームページURL	86	0 単位時間 0 単位 0 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位	
ホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状か	https://w	ww.o-hara な時間による 総授業時委 る時 を担当 を り で で で で で で で で で で で で り で り で り で	5 算定)	亭と連携し1 テと連携し1 ラ受業時数 ラうち企企業等 ううと連携し ううと連携り ラうと連携り ラうと連携り ラうと連携り ラうと連携り ラうと連携り ラうと連携り ラうと連携り ラうと連携り	ol/wakayan  た実験・実習の授業  等と連携した  た大演習の授業  をと連携した  たインター  た実験・実習  をと連携した  た大演習の授業  をと連携した  たた演習の授業  をと連携した  たた演習の授業	ma/ 習・実技の対 実時数 =必修の実影 =必修の演習 ーンシップの を必修の実影 を必修の実験 を必修の実験 を必修の実験 を必修の実験 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	僚・実習・身 習の授業時数) 受業時数 受業時数 後・実習・身 習の授業時数)	対の授業時数	ホームページURL	86	0 単位時間 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位	
ホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状か	https://w	ww.o-hara な時間による 総授業時委 る時 を担当 を り で で で で で で で で で で で で り で り で り で	5 算定) 女 うち企業等 うち企か修材 (うち企ま (うち企ま な うち企業等 女 うち企業等 な うち企ま (うち企ま (うち企ま (うち企ま (うち企ま (うち企ま (うち企ま (うち企ま (うち企ま (うち企ま (うち企ま (うち企ま (うち企ま (うち企ま (うち企ま (うちで) ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( (	亭と連携し1 テと連携し1 ラ受業時数 ラうち企企業等 ううと連携し ううと連携り ラうと連携り ラうと連携り ラうと連携り ラうと連携り ラうと連携り ラうと連携り ラうと連携り ラうと連携り	ol/wakayan  た実験・実習の授業  等と連携した と連携した と実験・実験 であ  を実験・実験 であ  を実験 にたと にたと にた後 にたん と に と に と に と に と に と に と に と に と に と	ma/ 習・実技の対 実時数 =必修の実影 =必修の演習 ーンシップの を必修の実影 を必修の実験 を必修の実験 を必修の実験 を必修の実験 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	僚・実習・身 習の授業時数) 受業時数 受業時数 後・実習・身 習の授業時数)	対の授業時数 て 経技の授業時数	ホームページURL	86	0 単位時間 0 単位 0 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位	
ホームページ URL 企業等と連携した況 実習等の実施状か	https://w	ww.o-hara な時間による 総授業時数 による 等機関策 中の担の年 でも選択である。	5 算定)	等と連携した。 等と連携した。 うちな企業等 を連携した。 うちと連携した。 うちと連携した。 うちと連携数業等を企産携した。 なのでである。 なのでである。 なのでである。 なのでである。 なのでである。 では、またのでである。 では、またので	ol/wakayan  た実験・実習の授業  等と連携した と連携した と実験・実験 であ  を実験・実験 であ  を実験 にたと にたと にた後 にたん と に と に と に と に と に と に と に と に と に と	ma/ 習・実技の対 実時数 =必修の実影 =必修の演習 ーンシップの を必修の実影 を必修の実験 を必修の実験 を必修の実験 を必修の実験 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	徐・実習・身 習の授業時数 の授業時数) 受業時数 後・実習・身 後・実習・身 の授業時数) (専修学	対の授業時数 て  (はの授業時数  (はの授業時数  (	ホームページURL	88(	0 単位時間 0 単位 0 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位	
ホームページ URL 企業等と連携した実習等の実施状況 (A、Bいずれか に記入)	https://w (A:単位 (B:単位	ww.o-hara z時間による 総授業時委 数による 多 を授業時委 で で の で の で の で の で の で の で の で の で の	5 算定)  対	等と連携した 等と連携した ララを連携した。 ラうと連携した。 ラうと連携した。 する企産業等をと連携した。 をはまります。 なのでは、 なのでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	ol/wakayan  た実験・実習の授業  等と連携した と連携した と実験・実験 であ  を実験・実験 であ  を実験 にたと にたと にた後 にたん と に と に と に と に と に と に と に と に と に と	ma/ 習・実技の対 実時数 =必修の実影 =必修の演習 ーンシップの を必修の実影 を必修の実験 を必修の実験 を必修の実験 を必修の実験 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	徐・実習・身習の授業時数) の授業時数) 受業時数 受業時数 (専修学	対の授業時数 で技の授業時数 で 校設置基準第41条第12 を 校設置基準第41条第12	ボームページURL (項第1号) (項第2号)	88(	0 単位時間 0 単位	
ホームページ URL 企業等と連携した況 実習等の実施状か	https://w (A:単位 (B:単位	ww.o-hara z時間による 総授業時奏 が数にといる を経授業の をはいる ないでは、	5 算定)	序と連携した。 等と連携した。 する企企業時数 では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	ol/wakayan  た実験・実習の授業  等と連携した と連携した と実験・実験 であ  を実験・実験 であ  を実験 にたと にたと にた後 にたん と に と に と に と に と に と に と に と に と に と	ma/ 習・実技の対 実時数 =必修の実影 =必修の演習 ーンシップの を必修の実影 を必修の実験 を必修の実験 を必修の実験 を必修の実験 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	徐・実習・身習の授業時数) 一般である。 一般である。 一般である。 一般である。 一般である。 一般である。 一般である。 一般である。 一般である。 「事を学 「事を学」 「事を学	対して 対して 対して 対して 対して 対して 対して 対して	ホームページURL (項第1号) (項第2号) (項第3号)	886	0 単位時間 0 単位 - 単位	
ホームページ URL 企業等等の実施状か に記入) に記入)	https://w (A:単位 (B:単位	ww.o-hara z時間による 総授業時奏 が数にといる を経授業の をはいる ないでは、	5 算定)  対	序と連携した。 等と連携した。 する企企業時数 では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	ol/wakayan  た実験・実習の授業  等と連携した と連携した と実験・実験 であ  を実験・実験 であ  を実験 にたと にたと にた後 にたん と に と に と に と に と に と に と に と に と に と	ma/ 習・実技の対 実時数 =必修の実影 =必修の演習 ーンシップの を必修の実影 を必修の実験 を必修の実験 を必修の実験 を必修の実験 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	徐・実習・身習の授業時数) 一般である。 一般である。 一般である。 一般である。 一般である。 一般である。 一般である。 一般である。 一般である。 「事を学 「事を学」 「事を学	対の授業時数 で技の授業時数 で 校設置基準第41条第12 を 校設置基準第41条第12	ホームページURL (項第1号) (項第2号) (項第3号)	886	0 単位時間 0 単位	
ホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか に記入)	https://w (A:単位 (B:単位	ww.o-hara z時間による 総授業時奏 が数にといる を経授業の をはいる ないでは、	5 算定)	序と連携した。 等と連携した。 する企企業時数 では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	ol/wakayan  た実験・実習の授業  等と連携した と連携した と実験・実験 であ  を実験・実験 であ  を実験 にたと にたと にた後 にたん と に と に と に と に と に と に と に と に と に と	ma/ 習・実技の対 実時数 =必修の実影 =必修の演習 ーンシップの を必修の実影 を必修の実験 を必修の実験 を必修の実験 を必修の実験 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	後・実習・身習の授業時数) 一般の授業時数	対して 対して 対して 対して 対して 対して 対して 対して	ホームページURL (項第1号) (項第2号) (項第3号) (項第4号)	886	0 単位時間 0 単位 - 単位	
ホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか に記入)	https://w (A:単位 (B:単位	ww.o-hara な時間による 総授業時数 な数に とまる のでは ないでは ないでは ないでは ないでは ないでは ないでは ないでは ない	5 算定)	序と連携した。 等と連携した。 する企企業時数 では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	ol/wakayan  た実験・実習の授業  等と連携した と連携した と実験・実験 であ  を実験・実験 であ  を実験 にたと にたと にた後 にたん と に と に と に と に と に と に と に と に と に と	ma/ 習・実技の対 実時数 =必修の実影 =必修の演習 ーンシップの を必修の実影 を必修の実験 を必修の実験 を必修の実験 を必修の実験 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	後・実習・身習の授業時数) 一般の授業時数	対して 対して 対して 対して 対して 対して 対して 対して	ホームページURL (項第1号) (項第2号) (項第3号) (項第4号)	886	0 単位時間 0 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単 0 - 1 人 0 人	
ホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか に記入)	https://w (A:単位 (B:単位	ww.o-hara な時間による 総授業時数 に よっち に まっち に まっち の まっち	5 算定)	序と連携した。 等と連携した。 する企企業時数 では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	ol/wakayan  た実験・実習の授業  等と連携した と連携した と実験・実験 であ  を実験・実験 であ  を実験 にたと にたと にた後 にたん と に と に と に と に と に と に と に と に と に と	ma/ 習・実技の対 実時数 =必修の実影 =必修の演習 ーンシップの を必修の実影 を必修の実験 を必修の実験 を必修の実験 を必修の実験 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	後・実習・身習の授業時数) 一般の授業時数	対して 対して 対して 対して 対して 対して 対して 対して	ホームページURL (項第1号) (項第2号) (項第3号) (項第4号)	886	0 単位時間 0 単位 - 単 0 - 単 0 - 単 0	
ホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか に記入)	https://w (A:単位 (B:単位	ww.o-hara な時間による 総授業時数 総授業時数 による の を による の を の による による の による	5 算定) な うち企企業等   うち企必修材   うち企企業   うちを企り   うちを企り   うちを企り   うちを企り   うちを企り   うちを企り   うちを企り   うちを企り   うちを企り   させる   されば   ないのもればなる   ないのもればなる   ないのもればなる   ないのもればなる   ないのもればない   な	等と連携しした。 等と連携した。 等を要要にある。 うちとのでは、 等をと連携した。 では、 等をと連携をなる。 では、 等をと連携をなる。 では、 でも、 でも、 でも、 でも、 でも、 でも、 でも、 でも	ol/wakayan  た実験・実習の授業  等と連携した  た演習の授業  を主連携した  た実験・密の  を表達  を表達  を表達  を表達  を表達  を表  を表  を表  を	a・実技の打響・実技の打響・実技の打響・実技の打響・実技の打響・実技の打響・実技の打響・実技の打響・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・	徐・実習・身 愛楽時数) 受楽時数 受楽時数 ・実習・身 で表 の授楽時数) (専修学学学 ・専修学学学 ・「専修学学学	対の授業時数 ( 対決の授業時数 ( 校設置基準第41条第11 校設置基準第41条第11 校設置基準第41条第11 校設置基準第41条第11	項第1号) 項第2号) 項第3号) 項第4号)	886	0 単位時間 0 単位 - 単 0 - 単 0 - 単 0	
ホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか に記入)	https://w (A:単位 (B:単位	ww.o-hara な時間による 総授業時数 にという のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のででできます。 のででは、 のでできます。 のでできます。 のでできます。 のできます。 のできます。 のできます。 のできます。 には、 のできますます。 には、 のできますます。 には、 のできますます。 には、 のできますます。 には、 のできますます。 には、 のできますますます。 には、 のできますますます。 には、 のできますますます。 には、 のできますますますますます。 には、 のできますますますますますますますますますますますますますますますますますますます	5 算定)	亭と連携ししした。 等と連携ししした。 等をと連携数 業等 きとをををををををををををををををををををををををををををををををををををを	ol/wakayan  **た実験・実授  **  *	a・実技の打響・実技の打響・実技の打響・実技の打響・実技の打響・実技の打響・実技の打響・実技の打響・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・	徐・実習・身 愛楽時数) 受楽時数 受楽時数 ・実習・身 で表 の授楽時数) (専修学学学 ・専修学学学 ・「専修学学学	対して 対して 対して 対して 対して 対して 対して 対して	項第1号) 項第2号) 項第3号) 項第4号)	88(	0 単位時間 0 単位 - 単 0 - 単 0 - 単 0	
ホームページ URL 企業等と連携した況 を実習等の実施状況 (A、Bいずれか に記入)	https://w (A:単位 (B:単位	ww.o-hara な時間による 総授業時数 にという のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のででできます。 のででは、 のでできます。 のでできます。 のでできます。 のできます。 のできます。 のできます。 のできます。 には、 のできますます。 には、 のできますます。 には、 のできますます。 には、 のできますます。 には、 のできますます。 には、 のできますますます。 には、 のできますますます。 には、 のできますますます。 には、 のできますますますますます。 には、 のできますますますますますますますますますますますますますますますますますますます	5 算定)	等と連携しした。 等と連携した。 等を要要にある。 うちとのでは、 等をと連携した。 では、 等をと連携をなる。 では、 等をと連携をなる。 では、 でも、 でも、 でも、 でも、 でも、 でも、 でも、 でも	ol/wakayan  **た実験・実授  **  *	a・実技の打響・実技の打響・実技の打響・実技の打響・実技の打響・実技の打響・実技の打響・実技の打響・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・	徐・実習・身 愛楽時数) 受楽時数 受楽時数 ・実習・身 で表 の授楽時数) (専修学学学 ・専修学学学 ・「専修学学学	対の授業時数 ( 対決の授業時数 ( 校設置基準第41条第11 校設置基準第41条第11 校設置基準第41条第11 校設置基準第41条第11	項第1号) 項第2号) 項第3号) 項第4号)	88(	0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位 0 単位 0 単位 0 単位 0 単位 0 単位 1 単位 0 単位 1 単位 0 人 1 人 0 人 1 人 2 人	

- 1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係
- (1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本 方針
- ①厚生労働大臣保育士養成施設として、法令で定められた教育課程並びに外部実習又は就職先である児童福祉施設等と連携して教育課程の編成を行うことにより、専門的かつ実践的な知識・技術を修得した即戦力となる人材を育成する。
- ②保育福祉分野における学修の中心となる保育原理、障害児保育、保育表現、音楽技術の教育内容に関して、教育課程編成委員会を通じて常に業界の最新の情報を反映させる。
- ③上記①、②により編成された授業科目、内容が実践習得されているかどうか、教育課程編成委員による実践的視点で評価を受け、課題を浮き彫りにする事で、教育の質の確保ならびに更なる教育の質向上に活用する。
- ④当学園の教育課程の編成は一部の学科を除き学園本部が統括している。そのため教育課程編成委員会も各分野ごとに 各校共通の組織を設置する。
- (2)教育課程編成委員会等の位置付け
- ※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
- ①位置づけについて

教務部(課)の上位に教育課程編成委員会を設置し、企業等からの提言を参考にして本校の教育課程編成について協議 策定するための機関として位置づける。また、委員会での協議結果は大原学園教育本部に提出し、大原学園全校の教育 課程編成にも活用していく。

- ②意思決定の過程について
- (ア)学科の目的に基づき予め学内において現状の課題等を明確にした上で、教育課程編成委員会に提言を求める。
- (イ)委員会では企業等からの意見を参考に次年度以降の教育課程編成に関する改善案を策定する。
- (ウ)委員会での協議内容は学園教育本部に提出し、学園全校の教育課程編成にも活用していく。
- (エ)教育課程編成委員に教育現場の責任者である校長・教務部長・教務課長が参加することで、企業等の委員から提示された課題、改善提案を速やかに次年度以降の教育課程(授業科目・内容・手法)の編成に反映させることができる。
- (3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年4月1日現在

名	前	所 属	任期	種別
土井 淳宏		和歌山県民間保育園連盟	令和5年4月1日~令和7年3月 31日(2年)	1
内海 三千代		和歌山市立西脇幼稚園	令和5年4月1日~令和7年3月 31日(2年)	3
田中 克実		大原情報医療保育専門学校和歌山校	令和5年4月1日~令和6年3月 31日(1年)	_
太田 史巳充		大原情報医療保育専門学校和歌山校 代理	令和5年4月1日~令和6年3月 31日(1年)	_
吉本 卓真		大原情報医療保育専門学校和歌山校 補佐	令和5年4月1日~令和6年3月 31日(1年)	_
松田 拓也		大原情報医療保育専門学校和歌山校	令和5年4月1日~令和6年3月 31日(1年)	_

- ※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①~③のいずれに該当するか記載すること。 (当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「一」を記載してください。)
  - ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、 地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
  - ②学会や学術機関等の有識者
  - ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員
- (4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (8月、11月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年8月4日 16:40~17:20

第2回 令和4年11月17日 16:20~17:20

第1回 令和5年8月3日 16:40~17:20

- (5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
- ※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。
- (1)教育課程変更計画
- ①短期計画
- (ア)保育養成学科では前期からの課題であるがオンライン授業における教育成果を考慮すると、対面での授業が望ましい 科目が多くあると考える。今後も継続した研究が必要である。また、対面授業、グループワークを通した学生間の交流、コ ミュニケーション能力の向上等保育者を目指す学生として如何に身に付けさせるかが課題である。
- ②中·長期計画
- (ア)次世代型授業の構築に必要な具体的な項目、保育施設・児童福祉施設との連携
- (イ)実践的な教育を行うための保育実習等、授業以外での保育施設・児童福祉施設との連携
- ア.保育現場でも子ども達への教材としてデジタル化等が進んでおり、タブレット操作方法を含め、学生時代に習得すべき、 保育現場で役に立つパソコン操作等について
- →ExcelやWord、映像を作ったり、音源を繋げることができると良い。実習の際の指導案や、実習日誌もパソコンで打ち込む必要があるため、パソコンスキルは必要になる。
- イ. 実習不合格者や退学を希望する学生への対応に苦慮しており、保育現場における職員の離職止等を通して、学生に対する効果的学生指導法について
- →人間関係を大切にできるように学生たちには教えていく必要がある。
- ウ.指定感染症にて新型コロナウイルスが2類から5類に変わり、現場の行事や、子どもたちへの関わりの中での変化や、現在の状況について
- →子どものマスクは自由化されたが、ヘルパンギーナやインフルエンザ、RSウイルスが流行しており、対策に追われている。イベント等はコロナ前の状況に戻していく予定。
- エ.実習生や新任の先生の現場の状況を鑑み、外部実習に対する事前の意識づけや、事後の振り返りの際、特に行っておくべきことについて
- →担任の先生に負担をかけているという意識を持たせることが大切である。特に、遅刻、提出物、最低限言われたことを行えるかを実習前には学生に指導しておくことが良い。また、実習の振り返りでは、自分自身が子どもに掛けた言葉を覚えておき、その言葉がどのように子どもに影響を与えたかなどを振り返ると良い。他の先生の言動を観察、メモを行い、参考にできるような意識づけをしていくことが大切である。
- 2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係
- (1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
- ①保育士養成における実習・演習は、法令で定められた教育内容、施設での実施を基本としながら、児童福祉施設等との連携の下、現場で求められる知識・技術を考慮して、実習・演習の組立を行なう。
- ②児童福祉施設等との連携による実習・演習を通じて学生のより実践的な知識・思考・技術の修得と、社会人としての意識 改革を実現する。
- ③児童福祉施設等から実習・演習の授業内容、手法に関して具体的な助言を仰ぎ、学生の知識・技術の修得状況に対して 実践で活かせるレベルか否かを児童福祉施設等の実務の視点から評価を仰ぐ。
- (2)実習・演習等における企業等との連携内容
- ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
- 児童福祉施設等に保育実習受け入れ依頼を行い、保育実習受け入れ承諾書を頂戴するとともに、打合せを行い、下記の4 点について連携している。
- ① 実習実施前に、授業科目担当者と実習指導者による、実習授業内容及び実習授業評価ポイントの確認
- ② 施設内の各部署の見学、実習の実施
- ③ 学生の実習状況の確認及び実習指導者との情報交換のため、授業担当教員による施設訪問
- ④ 実習修了時の学生の学修成果の評価
- (3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
保育∙幼稚園実習Ⅱ	することを目的とする。観察や子どもとのかかわりを通して、職業倫理や子どもへの理解を深める。また、子どもの心身の状況に応じた対応、生活環境への理解を深め、専門職としての保育士の役割を学ぶ。 さらに、実習施設の概要と機能、役割の体験を通して理解し、更に社会における福祉施設の機能、役割を理解する。 関章福祉施設等の中での保育士の役割け名様で広範に	社会福祉法人和歌山つくし会和歌山乳児院、和歌山県立和歌山すみれホーム、社会福祉法人ひまわり福祉会児童発達支援センターおひさま園、有田市通所支援事業所さくらんぼ、海南市立日方保育所、岩出市立山崎保育所、和歌山市立中之島保育所、和歌山市立砂山保育所、湯浅町立向島保育所、有田市立糸我保育所、和歌山市立宮前幼稚園、たちばな幼稚園、海南市立黒江幼稚園、学校法人ぶっとく幼稚園、学校法人法輪学園湯浅幼稚園等

## 3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

# (1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

専門的かつ実践的な知識・技能を有し即戦力となる人材を育成するためには、教員一人ひとりが常に実務に関する最新の 知識を持ち、指導スキルを身につけなければならない。そのために以下のとおり教員研修の環境を整える。

「大原学園 教職員研修規程」の目的に定めるとおり、教職員が専攻分野に関する知識・技能・企画力・判断力等を高めるための環境を整備し、所属長の指示または本人の意思により、公平に研修等を受講する機会を与えるものとする。校内、校外において、学園が企画する研修は以下のとおり。

- ①教育課程編成委員会に参画する企業等から講師を派遣した実践的な知識・指導スキル研修
- ②大学教授等専門分野に特化した講師として招いた研修会の実施
- ③学内に設置される附帯教育講座を利用しての自己啓発

#### (2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 保育実習指導者セミナー 連携企業等:日本保育協会

期間: 令和4年8月19日 対象: 当学科教員

内容 コロナ禍を経て変わり続けている保育の現場や学生のより効果的な保育所実習指導について学ぶ。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 教育現場でのカウンセリングについて 連携企業等: 和歌山県教育カウンセラー協会

期間: 令和4年11月26日 対象:和歌山校教員

内容教育現場でのカウンセリングについての知識向上

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 保育実習指導者セミナー 連携企業等:日本保育協会

期間: 令和5年11月予定 対象: 当学科教員

内容 保育の現場や学生のより効果的な保育所実習指導について学ぶ。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 教育現場でのカウンセリングについて 連携企業等: 和歌山県教育カウンセラー協会

期間: 令和5年11月頃 対象: 和歌山校職員

内容教育現場でのカウンセリング手法、注意点の説明

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。 また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

#### (1)学校関係者評価の基本方針

当学園の教育理念は、学生に対して資格取得教育、実務教育を施し、人格の陶冶を行い、有為な産業人を育成することである。この教育理念に基づき実践的な教育が実現出来ているか、また、その教育を実現するために必要な環境が整っているかについて、学校関係者評価委員を設置して下記に示す評価項目から評価する。課題の残る評価結果については、課長職以上の管理職より改善計画を策定し、次年度以降の学校運営に反映させ改善を図る。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の	
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念·目標	①理念・目的・育成人物像は定められているか。 ②学校の特色はなにか。 ③学校の将来構想を抱いているか。
(2)学校運営	①運営方針は定められているか。 ②事業計画は定められているか。 ③運営組織や意思決定機能は効率的なものになっているか。 ④人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか。 ⑤意思決定システムは確立されているか。 ⑥情報システム化等による業務の効率化が図られているか。
(3)教育活動	①各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向づけられているか。②修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか。③カリキュラムは体系的に編成されているか。④学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか。⑤キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか。⑥授業評価の実施・評価体制はあるか。⑦育成目標に向け授業を行なう事ができる要件を整えた教員を確保しているか。 ⑧成績評価・単位認定の基準は明確になっているか。 ⑨資格取得の指導体制はあるか。
(4)学修成果	①就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか。 ②資格取得率の向上が図られているか。 ③退学率の低減が図られているか。 ④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。
(5)学生支援	①就職に対する体制は整備されているか。 ②学生相談に関する体制は整備されているか。 ③学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか。 ④学生の健康管理を担う組織体制はあるか。 ⑤課外活動に対する支援体制は整備されているか。 ⑥学生寮等、学生の生活環境への支援は行なわれているか。 ⑦保護者と適切に連携しているか。 ⑧卒業生への支援体制はあるか。
(6)教育環境	①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか。 ②学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。 ③防災に対する体制は整備されているか。
(7)学生の受入れ募集	①学生募集活動は、適正に行なわれているか。 ②学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。 ③入学選考は適正かつ公平な基準に基づき行なわれているか。 ④学納金は妥当なものとなっているか。
(8)財務	①中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか。 ②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。 ③財務について会計監査が適正に行なわれているか。 ④財務情報公開の体制整備はできているか。
(9)法令等の遵守	①法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。 ②個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。 ③自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか。 ④自己点検・自己評価結果の公開はしているか。
(10)社会貢献・地域貢献	①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行なっているか。 ②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。
[(11)国際交流 ※(10)及び(11)については任意記載。	<u> </u>

## (3)学校関係者評価結果の活用状況

学生の社会適応能力についての意見を頂戴し、単なる資格取得のみならず、実務を意識した教育を行い、座学と実学の両 方を修得するための指導を取り入れる。また、全員参加の学校行事、クラブ活動やボランティア活動などの社会貢献活動を 通じてコミュニケーションカの向上に向け改善を行っている。

## (4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期
内海 三千代	和歌山市立紀伊幼稚園	令和5年4月1日~令和7年3月 企業等委 31日(2年) 員
酒本 正志	ASMILE株式会社	令和5年4月1日~令和7年3月 <b>企業等委</b> 31日(2年)
大浦 順司	海南医療センター	令和5年4月1日~令和7年3月 <b>企業等委</b> 31日(2年) 員
川嶋 裕一	株式会社ディープラス	令和4年4月1日~令和6年3月 <b> 企業等委</b> 31日(2年)   員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

)) ◯ホームページン・ 広報誌等の刊行物 ・ その他(

URL: https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/

公表時期: 令和5年10月20日

- 5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に 関する情報を提供していること。」関係
- (1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
- ①実践的な職業教育における成果を広く周知することにより、入学希望者の適切な学習機会選択に資すること。そのため に、学校関係者評価結果も含めて教育活動の状況や課題など学校全体に関する情報を分かりやすく示すこと。
- ②また、上記①により企業等との連携による教育活動改善を活発にし、社会全体の信頼に繋げていくこと。
- ③情報の公表を通じて学校の教育の質の確保と向上を図ることを目的とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

号の
3

))

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

<u>(ホームページ)・</u> 広報誌等の刊行物 ・ その他(

https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/ 令和5年10月20日 URL:

公表時期:

# 授業科目等の概要

	(孝	<b>教育</b>	社会	福祉専門課程	保育学科)											
		分類	į						授	業フ		場	所	教	員	
		選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授 業 時 数	単位数		演習	実験・実習・実技	校内	校外	,		企業等との連携
1	0			健康科学	生活習慣と環境との相互作用が、健康状態 に与える影響を学ぶ。また、スポーツを文 化的視点、生物学的視点、運動学的視点等 の様々な視点で捉えることにより、自己の 健康・体力づくり及び豊かなライフスタイ ルについての見識を身につける	1 後	15	1	0		<u> </u>	0		0		
2	0			スポーツ(実 技)	バレーボール、バドミントン、バスケットボール、ダンス等のスポーツ実技を通じ、各種スポーツ能力の向上、更には自己の健康・体力を適切に管理できる能力を養う。また、縄跳び、マット運動等の幼児期に必要な運動能力などについても学ぶ	1 後	30	1			0	0		0		
3	0				保育所・幼稚園の生活に参画し、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所・幼稚園の機能と保育士・幼稚園教諭の職務、関連職員との連携について理解を深める。また、現場で直接学べる貴重な時間であることを意識し、実践を通じて保育内容や環境への理解、保育計画と記録の重要性への理解を深める機会とする(事前指導・実習)	2 前	80	2			0		0		0	
4		0		一般教養	国語を中心として、手紙・ビジネス文書の 書き方、漢字の練習、話し方、敬語の使い 方等を学習し、読解力・作文能力を養い、 社会人として、また保育士として正しい日 本語の使い方を習得する	1 前	30	2	0			0			0	
5		0		情報リテラ シーと処理技 術	パソコン(Word・Excel)の基本知識及び基本的操作技術を習得し、業務における様々な目的に応じて、柔軟かつ効率良く対処できる能力を習得する	1 通	30	2		0		0			0	
6		0		憲法	日本国憲法の意義、特質を理解し、基本原理について学ぶ。なかでも基本的人権と統治機構について理解を深め、日本国憲法の全体像について学ぶ	1通	30	2	0			0			0	
7		0		ビジネス教養	公務員試験または民間企業における入社試 験などに対応できる一般知能科目を中心と した基礎学力の習得を図る。また、適性検 査や面接などの対策なども行う	2 前	30	2	0			0			0	

		 •		_					ī		 	
8	0	保育内容総論	保育所保育指針における「保育の目標」、 「育みたい資質・能力」「幼児期の終わり までに育ってほしい姿」「保育の内容」に 関連付けて保育内容を理解するとともに、 保育指針の各章のつながりを読み取り、保 育の全体的な構造を理解する	1 前	30	1		0		0	0	
9	0	保育の計画と 評価	園生活の代表的な保育内容、あるいは保育活動を例にとりながら、保育の計画と評価の基本を学ぶ。全体的な計画と指導計画の意義と方法を理解し、保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)の基本を押さえ、子どもの理解に基づいて計画を立てる際の要件を学ぶ	1 後	30	2	0			0	0	
10	0	保育内容(健康)	乳幼児の健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う領域「健康」について学ぶ。乳幼児期の子どもの心身の発育・発達の基礎として何が必要であるか、そして発育・発達のために保育者としてどのように援助するべきかについての視点とかかわり方を演習を通して具体的に学ぶ	1 前	30	1		0		0	0	
11	0	保育内容(人 間関係)	乳幼児が他の人々と親しみ支え合って生活するために、自立心を育て人とかわる力を養う領域「人間関係」について学ぶ。演習を通して乳幼児の遊びや生活全体を通して「豊かな人間関係」や「身近な人と気持ちが通じ合う心」を育むための保育士の留意点や配慮すべき事項を学ぶ	1 通	30	1		0		0	0	
12	0	保育内容(環境)	乳幼児が周囲の様々な環境に好奇心や探究心を持ってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う領域「環境」について学ぶ。乳幼児が遊びを通して環境と主体的・直接的に関わることにより、生きる力を獲得していくことを理解し、その環境の中で子どもの遊びとは何か、を学ぶ	1 前	30	1		0		0	0	
13	0	保育内容(言葉)	乳幼児が経験したことや考えたことなどを 自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉 を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に 対する感覚や言葉で表現する力を養う領域 「言葉」について学ぶ。そして乳幼児が別 生活を通して豊かな言葉を獲得していくた めには、保育者がどのように援助し役割を 果たせばよいかを、演習を通して考える	1 前	30	1		0		0	0	
14	0	保育内容(表現)	乳幼児が感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする領域「表現」について学ぶ。乳幼児の健やかな成長を促し、個々の表現活動を認め個性を伸ばしていくことが重要であり、演習を通して具体的な実践方法を学ぶ	1 後	30	1		0		0	0	
15	0	造形表現 I	演習授業内で使用する各課題での素材の特性を実際の作品制作の中で経験し、その経験の中から発達段階にある乳幼児の表現に対しての指導方法を学ぶ。子どもが自由に発想し制作する作品に対しての理解力や対応力を身につける	1 前	30	1		0		0	0	

		 •	_										 
16	0	音楽とリズム	楽譜の読み方、音程、音階、和音、リズムなどの学びを活用し、音楽による基礎的な表現力を身につける。また、童謡や手遊びを題材に入れ、歌唱教育の技術を習得すると同時に身近な自然やものの音や音色について学ぶ	1 後	30	1		0		0		0	
17	0	教育原理	教育の目的・内容・方法及び子ども家庭福祉との関連性について理解するとともに、 教育に関する基礎的概念、教育活動における実践原理を体系的に学ぶ。また、生涯学 習時代のあり方についても触れる	1 後	30	2	0			0		0	
18	0	社会福祉	社会福祉の理念の理解をもとに、わが国の社会福祉の体系、相談援助や利用者の保護にかかわる仕組みについて理解する。また、社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解を深める	1後	30	2	0			0		0	
19	0	社会的養護 I	現代社会における社会的養護の理念と概念や歴史的変遷について理解し、子どもの人権擁護をふまえた社会的養護の基本について学習する。また、社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する	1 後	30	2	0			0		0	
20	0	保育者論	保育士として欠くことのできない資質能力 や保育士の制度的な位置付けを理解する。 また、保育者の役割や倫理、専門性を考察 するとともに専門職間及び専門機関との連 携、保護者や地域社会との連携・協働につ いても理解を深める	1 前	30	2	0			0		0	
21	0	言語表現	言語表現に関する基礎を理解し、発達段階に応じた教材の選び方を学ぶ。また、演習を通し絵本・紙芝居の読み聞かせ、素話の技術などを身につける	1前	30	1	0			0		0	
22	0	子どもの理解 と援助	子どもを理解するための具体的方法や保育 士としての援助や態度の基本について理解 する。保育実践において、実態に応じた子 ども一人一人の心身の発達や学びを把握す ることの意義について学ぶ	1通	30	1		0		0		0	
23	0	教育方法論 I	乳幼児期の育ちや生活の特徴を知り、発達 段階に応じた子どもへの関わり方について の理解を深めるとともに、乳幼児期の教育 の方法に関する基本原理を学ぶ。また、子 どもにとっての遊びの重要性を理解したう えで、遊びを中心とした教育実践を学ぶ	1 前	30	2	0			0		0	
24	0	保育実習Ⅰ①	保育所の生活に参画し、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能と保育士の職務、関連職員との連携について理解を深める。また、現場で直接学べる貴重な時間であることを意識し、実践を通じて保育内容や環境への理解、保育計画と記録の重要性への理解を深める機会とする	2 後	80	2			0		0	0	

		 I	T									
25	0	保育実習指導工①	保育実習を円滑に進めるための知識・技術・態度について学ぶ。実習の意義・目的、実習内容並びに実習日誌の書き方、乳幼児保育の理解、実習生としての基本的な心構えや姿勢を習得する。また、事後指導として、実習体験に基づきグループ討議等を行い、施設に対する認識を深めると同時に、実習態度を振り返り、改善すべき点を見出す	2 前	30	1		0	0	(	O	
26	0	保育原理	保育者となるための基本的な考えを総合的に学習する。保育の意義及び目的を理解するとともに、保育に関する法令及び制度、保育所保育指針における保育の基本について理解を深め、保育の現状と課題を理解する	2 前	30	2	0		0	Ó	0	
27	0	子ども家庭福 祉	現代社会において子どもがおかれている現状を把握するとともに、現在の子ども家庭福祉の制度及びその役割を体系的に理解する。また、子どもの人権、子どもをとりまく環境、子ども家庭福祉に係る援助活動について理解する	2 前	30	2	0		0	Ó	0	
28	0	保育の心理学	保育実践に関わる発達理論等の心理字的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解し、子どもへの理解を深める。養護及び教育の一体性、発達に即した援助を学び、乳幼児期の子どもの学びの過程、特性を踏まえた人との相互的関わりや体験、環境の音義を学ぶ	2 通	30	2	0		0	Ó	0	
29	0	子ども家庭支 援の心理学	生涯発達に関する心理学の基本的な知識を習得し初期経験の重要性や発達課題等について理解する。また、家族・家庭の意義と機能、子育て家庭を取り巻く社会状況、子どもの精神保健とその課題について理解する	2 通	30	2	0		0	Ó	0	
30	0	子どもの保健	子どもの身体的な発育・発達と健康について理解する。また、子どもの健康管理のために、医学的な基礎知識を理解するとともに、疾病への適切な対応やその予防対策、他職種間の連携・協働について理解を深める	2 通	30	2	0		0	(	0	
31	0	保育実習指導 I ②	保育実習指導 I ①を踏まえ、児童福祉施設 実習に対する基本的な事項の確認と新たな 実習課題の決定、課題達成に必要な準備を 行なう。また、事後指導としては、実習体 験に基づきグループ討議等を行い、施設に 対する認識を深めると同時に、実習態度を 振り返り、改善すべき点を見出す	2 前	30	1		0	0	(	0	
32	0	障害児保育	障害児保育の理念や歴史的変遷について学び、障害児及び特別な配慮を要する子どもの保育や家庭の支援について理解する。その上で、具体的援助の方法、環境構成、保育計画について理解を深める。また、各関係機関との連携及び保健・医療・福祉・教育等の現状と課題についても理解を深める	2 通	30	2		0	0	(	)	
33	0	社会的養護Ⅱ	子どもの理解を踏まえた社会的養護の基本 的な内容について具体的に理解し、かつ、 施設養護及び家庭養護の実際についても理 解を深める。また、社会的養護における計 画、記録、自己評価を理解し、相談援助の 方法・技術や子ども虐待防止について学ぶ	2 前	30	1		0	0	(	0	

34	0		子育て支援	保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援について、その特性と展開を具体的に理解する。保育士の行う子育て支援とその実際を実践事例等を通して具体的に理解する	2 後	30	1		0	0	0	
35	0		身体表現	子どもの発達と運動機能に関する知識を学び、演習を通して、運動遊びの実践や、見立て遊びやごっこ遊び、劇遊びなど遊びの教育的意味について理解を深める	2 通	30	1		0	0	0	
36	0		子ども家庭支 援論	子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解し、子ども家庭支援の現状や課題について学ぶ。子育て家庭のニーズを理解し、保育士として専門性を生かした多様な支援の展開や関係機関との連携について学ぶ	2 通	30	2	0		0	0	
37	0		子どもの食と 栄養	養護及び教育の一体性を踏まえた子どもの 食生活、栄養に関する基本的知識を体系的 に理解するとともに、特に保育の実際との 関連において実践的な知識・理解を深め る。また、特別な配慮を要する子どもの食 と栄養についても理解する	2 通	30	2		0	0	0	
38	0		保育実践演習	保育に関する教科目及び保育実習等の経験を踏まえ、自らの学びを振り返る。グループ討議や研究発表形式により様々な視点から今後の保育の課題等について学習すると同時に、自己の課題を明確にし、目指す保育士像や今後に向けた自己の取り組みについて考える	2 通	60	2		0	0	0	
39		0	英語コミュニ ケーション I ①	基本的な英語力として、基礎的な単語力、 文法力を習得し、reading及びwritingの力 及び日常生活における基本的な会話力を身 に付ける。また、会話に頻繁に使用される 基本動詞の活用法を習得することにより、 基本的な英語表現を習得する	1通	30	2		0	0	0	
40		0	レクリエー ション概論	レクリエーションの意義と歴史・使命・仕組み等、制度について理解を深める。また、現代社会の中で、個人のライフスタイルや家族、地域社会の置かれている状況、少子高齢社会の課題を確認し、レクリエーション支援が必要とされる(活用ができる)具体的な場面について理解を深める	1 前	30	2	0		0	0	
41		0	こどもと音楽	音楽理論の基礎を学習する。楽譜の読み 方、音程、音階、和音、こどもにとっての 音楽の必要性などを学び、音楽の基礎的な 力を身に付ける	1 後	15	1	0		0	0	
42		0	英語コミュニ ケーション I ②	基本的な英語力として、基礎的な単語力、 文法力を習得し、reading及びwritingの力 及び日常生活における基本的な会話力を身 に付ける。また、会話に頻繁に使用される 基本動詞の活用法を習得することにより、 基本的な英語表現を習得する	2 通	30	2		0	0	0	

43	0	保育原理Ⅱ	保育原理で学んだ保育に関する基礎的事項 や概念を踏まえつつ、保育内容の構造や 様々な保育形態について具体的に学ぶ。ま た、海外の保育実践の内容についても学び ながら、我が国の保育を模索していく上で 必要な視点について学習する	2 前	30	2	0		0	0	
44	0	子ども家庭福 祉 II	児童福祉に関する歴史的変遷と今日的課題 について諸制度を踏まえながら、更に深く 理解する。また、子どもの文化の変化につ いて、遊びの変化、道具の変化を通じて個 の発達及び子どもの集団の発達について思 考し、児童文化の観点から捉えていく	2 後	30	2	0		0	0	
45	0	保育実技I	乳幼児期にふさわしい保育方法・技術の基本を学ぶとともに、その過程の中で幼児理解を深めながら保育者としての姿勢や態度を身に付け、乳幼児に関わる保育者としての自覚が持てるようにする。又、保育現場で実践する際の準備や配慮を知り、保育実習にも役立つ学習をする	1 前	30	2		0	0	0	
46	0		レクリエーションについて理解を深め、計画・実施・評価の方法、安全管理について学習し、演習を通して、そのあり方や、主体的に活動を起こす具体的な展開方法などを身につける。また、レクリエーション財(音楽、遊び、環境、様々な道具等)への理解を深め、レクリエーションの指導方法を習得する	1 通	60	2		0	0	0	
47	0	鍵盤奏法の基 礎	音楽を通し、表現による情操を養うことを 目的として、ピアノや電子楽器などを用 い、鍵盤奏法の技術を習得する。また、保 育現場で必要な鍵盤楽器の基礎的な知識及 び技術などを学ぶとともに、入学以前の音 楽経験に応じた個々の技術レベルに沿った 学習を行なう	1 通	60	2		0	0	0	
48	0	保育方法論	保育所保育指針に示される「保育の方法」の基本理念を踏まえつつ、保育所における 具体的な実践例の中から学びを深める。理 論と実践との接点や「乳幼児の発達」「環 境による保育」という観点から、演習を通 して保育方法論を基に保育士に必要な知 識・技能・態度を習得する	2 通	60	2		0	0	0	
49	0	造形表現 2	物を作る活動・表現行為の中から、創作 (表現)の喜びを味わう。また、保育者と しての援助のあり方・教材研究などの基礎 を学ぶための演習として、折り紙・製作・ 絵画などの手法を用いて、それらのものを 体感することを目標とする	2 通	60	2		0	0	0	
50	0	鍵盤奏法の応 用	鍵盤奏法の基礎で学んだ技術を生かし、即 興演奏法を身につけ、コードによる伴奏や 楽曲の創作等ができるように、技術力の向 上を目指す。また、弾き歌いを通し、保育 者の基本技能を身につける	2 通	60	2		0	0	0	

51	C	0	乳幼児心理学	乳幼児がこの世界をどのように理解しようとしているのか、又その理解の仕方の変化や発達について学習する。又、子どもと大人の視点の違いを理解し、保育者としての適切な子どもへの関わり方を学習する	2 通	30	2	0			0		0		
52	C	0	保育・幼稚園 実習 II	保育所・幼稚園の生活に参画し、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所・幼稚園の機能と保育士・幼稚園教諭の職務、関連職員との連携について理解を深める。また、現場で直接学べる貴重な時間であることを意識し、実践を通じて保育内容や環境への理解、保育計画と記録の重要性への理解を深める機会とする(実習・事後指導)	2 後	80	2			0		0		0	0
53	C	0	保育実技Ⅱ	乳幼児の発達段階に沿った興味・関心を引き出せるような活動方法を学び、様々な保育技術を習得する。また、保育の立案から実践に至る演習過程を通して、保育構成と方法、必要な技術を学び、指導案作成から実践まで現場で生かされる実践力を身に付ける	1 後	30	2		0		0		0		
54	C	0	教育方法論Ⅱ	乳幼児期の教育の基本原理を踏まえ、保育 現場におけるカリキュラム構造を理解しつ つ、その場に応じた教育方法を考える力を 身につける。又、保育者の構成する教育内 容・方法が子どもに影響を与えることを理 解し、具体的な場面として創造できるよう になるとともに、実践力の向上を目指す	1 後	30	2	0			0		0		
55	C	0	保育ボラン ティア実習 I	保育園や児童福祉施設でのボランティアを通じて、多岐にわたる保育士の仕事を理解し、保育現場の高度な専門知識や専門技術に触れることにより、基礎学習の重要性を理解するとともに、社会人として組織に参加、貢献する経験を積み、保育士の仕事の理解を深める	1 前	30	1	0	0	0		0	0		
56	C	O .	保育ボラン ティア実習 II	保育園や児童福祉施設で実社会を経験しながら、自分自身の保育者としての適性及び課題を明確にするとともに、社会人としての行動や心構えを体得する。又、保育現場の仕事を通じて自立心と向上心を併せ持った総合的な人間力を高める	1 後	30	1	0	0	0		0	0		
57	C	0	小児体育	「楽しむ」を前提とした体育について、各種目についてのルールを理解し実践する。 それらを発達段階に沿った「楽しい運動遊び」への変換方法を考察し体験する	2 後	30	1		0		0		0		
58	C	0	音楽表現1	音楽やリスムを身体を通して感じ、考え、 音楽表現に必要な技術とその方法論の基礎 を学ぶ。また、保育の現場で活用する手遊 びや歌遊び、身体創作表現など具体的な教 材を通して、表現意欲を養い、創造性を豊 かに実践力のある保育者としての資質能力 を形成する	2 前	30	1		0		0		0		
59	C	0	児童レクリ エーション概 論	形態別のレクリエーション技術について理解するとともに、演習も交えて児童の年齢に応じたレクリエーション方法(歌、集団ゲーム遊び、野外遊びなど)を学習する。また、四季を感じさせる童謡(合奏・合唱など)も身につける	2 後	30	2	0			0		0		

60	0	子どもの理解 と援助Ⅱ	子どもの理解と援助で学習した内容を更に掘り下げ、子どもを理解するための具体的方法や保育士としての援助や態度の基本について理解する。子どもを理解するための話し方や共感的態度、保護者との連携方法等を学ぶ	2 通	30	2		0		0		0		
61	0	こども学概論	現代社会の中で、子どもに関わる具体的事例をもとに多角的な視点により「子ども」について学習する。子どもを取り巻く社会(家庭や保育所、学校、地域、制度など)で起こる様々な事象から広く子どもの理解を深める	2 前	30	2	0			0		0		
62	0	卒業研究	2年間の集大成として、各人がそれぞれに テーマを掲げ、自己の研究課題に取り組 み、研究発表により成果を残す	2 後	30	1		0		0		0		
63	0	保育ボラン ティア実習Ⅲ	多くの保育現場を体験することにより、保育の多様性を理解し、自らの保育観を構築する。又、今までのボランティアや保育実習の経験を基に、現場での業務範囲を広げ、保育の現状を理解し、多面的に保育現場を考察する	2 前	30	1	0	0	0		0	0		
64	0	保育ボラン ティア実習Ⅳ	ボランティア実習 I ~Ⅲの経験を基に、継続的に乳幼児と関わりながら自ら課題を設定し、その課題に合わせた観察や考察を行い、保育士としての観察力や考察力を高める。又、保育現場で自ら進んで行動できるように、さらに行動力を身に付ける	2 後	30	1	0	0	0		0	0		
65	0	保育実技Ⅲ	保育者として必要な心構えや専門性を高める。保育現場の保育活動が豊かに展開できるようにするための技術を学習し、具体的な実践力を発揮できるようにするとともに、各教科で培った知識を総合的に活用し、保育現場をイメージしながら指導技術を習得する	2 前	30	2		0		0		0		
66	0	保育実技IV	卒業後の就職を意識して保育の仕事内容についての理解を深め、今後の保育現場で役立てることのできる質の高い技術を積極的に探究し、習得するとともに、保育現場で必要な業務のノウハウを知り習得する	2 後	30	2		0		0		0		
67	0	保育実習I②	児童福祉施設等の生活に参画し、観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。子どもの心身の状況に応じた対応、生活環境への理解を深め、専門職としての保育士の役割と倫理を学ぶ。また、実習を通して支援計画、記録の重要性を理解する	2 後	80	2			0		0		0	
		合計	67	1 科	目				109	単位	立 (	単位	時間	])

	卒業要件及び履修方法	授業期間等				
卒業要件:	卒業の認定は、修業年限以上在学し、1700時間以上を履修し、かつ定められた授業科目及び単位数(62単位)を修得し、卒業審査に合格した者について、校長が行う。	1 学年の学期区分	2 期			
履修方法:	学業成績は、授業科目ごとに行う定期試験のほか、授業科目により中間試験や授業内に行う効果測定、課題の提出により評価する。なお、本校において必要と認めた場合に限り、追試験または再試験を行うことがある。追試験は事故等やむを得ない理由により試験を受験しなかった者に対して行う。再試験は試験等受験の結果、不合格になった者に対して実施する。また、学業成績の判定は、秀、優、良、可、不可の5種をもってこれを表し、秀は90点以上、優は80点以上、良は70点以上、可は60点以上、不可は60点未満とし、秀、優、良、可を合格、不可は不合格とする。授業科目の成績は、前項の5種で表すと共に、それぞれの評価に対して、別に定める基準によりGP(Grade-Point)を与える。	1 学期の授業期間	22 週			

# (留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について〇を付すこと。